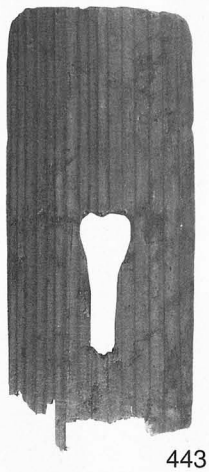
図版50　木製品　木札(3)

426

426

426

442


443

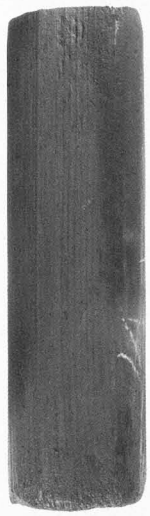
444

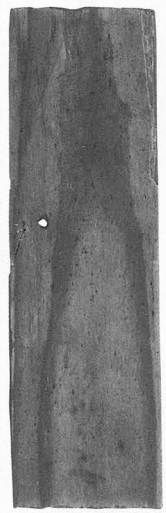
445

446

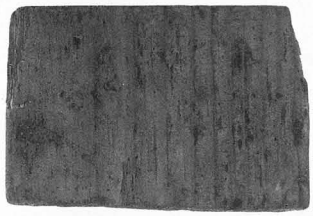
447

448

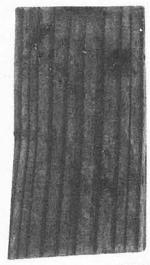


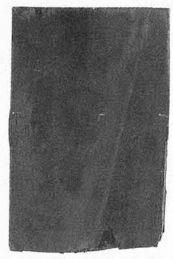

449

450

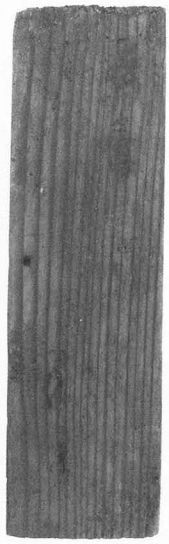

451

452

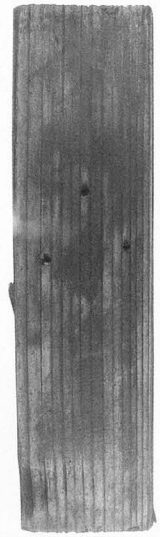

453

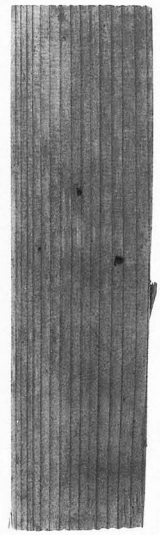

454

455

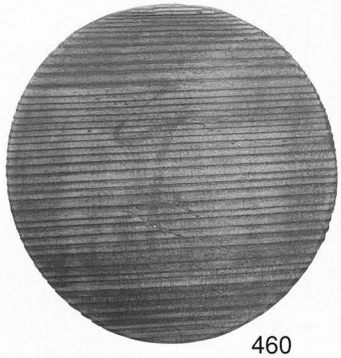

456

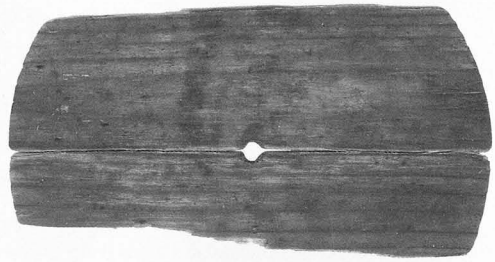
459

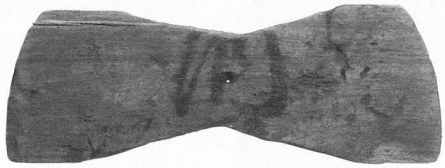


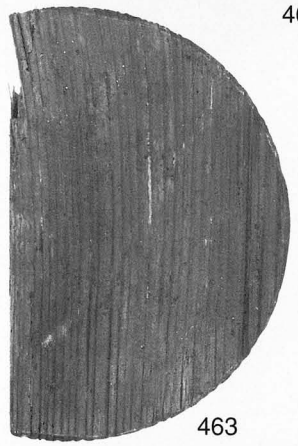

458

459

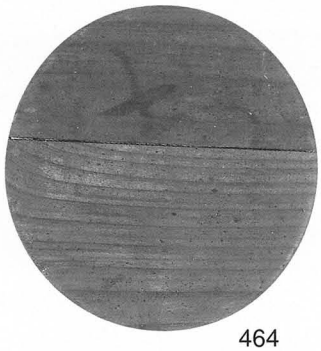

460

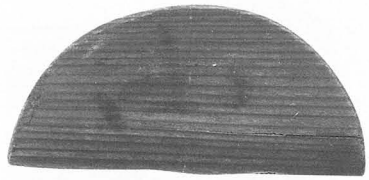

462

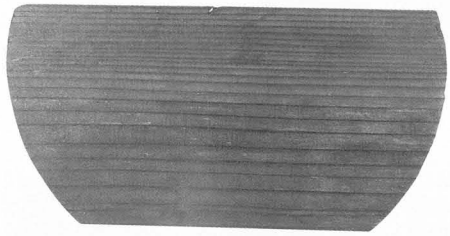

461


463

図版52　木製品　木札(5)


464


465


466

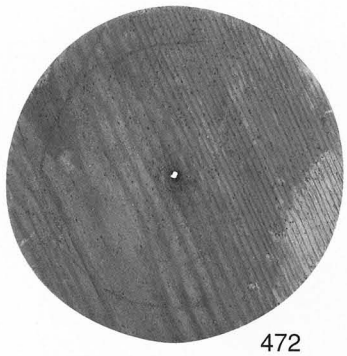
467

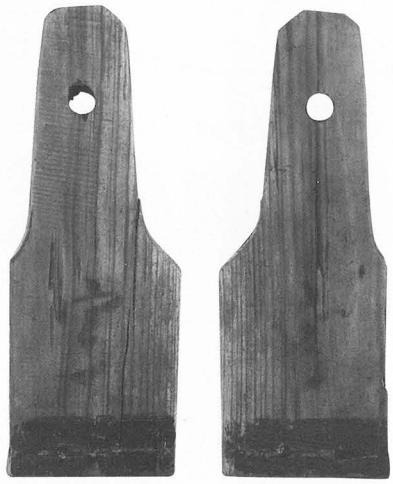
468

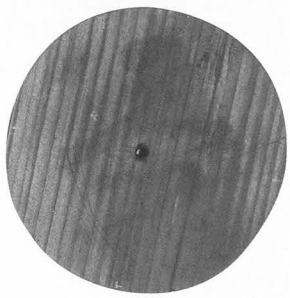
469

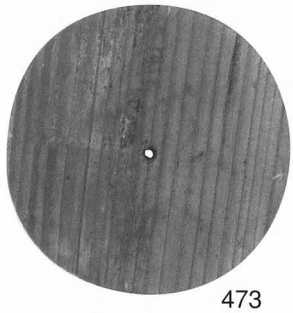
470

471


472


474

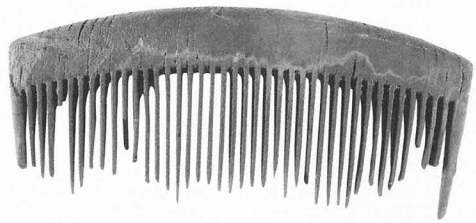



473

図版53　木製品　木札(6)・その他(1)

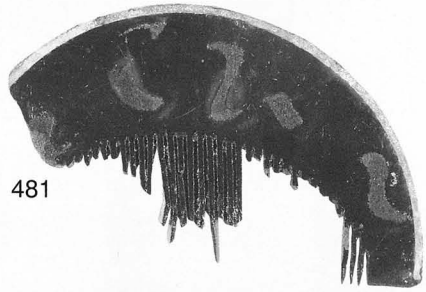
477

478



479

480

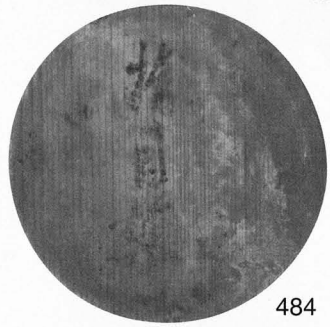


481

482

485

483

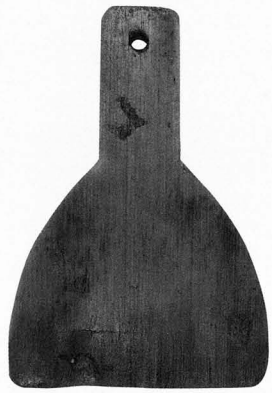


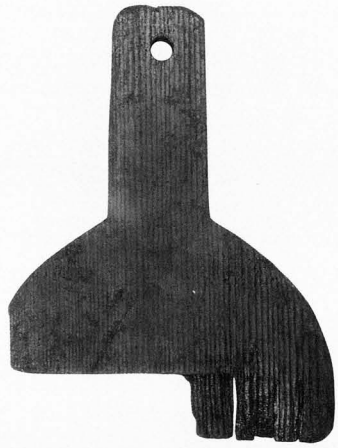
484

図版54　木製品　その他(2)

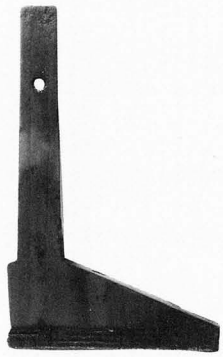
図版55　木製品　その他(3)

498


499


500

501


502

503

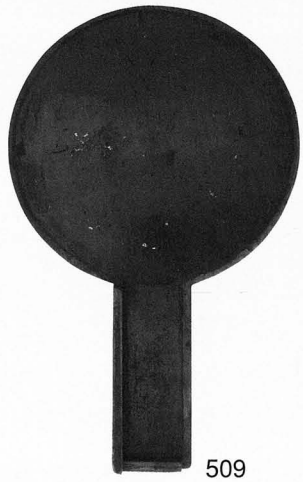
504

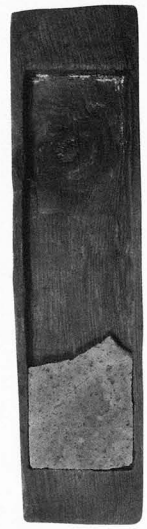
505

506

507

508


509


510

報告書抄録

ふりがな	とやまじょうあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	富山城跡発掘調査報告書
副書名	総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城下町の発掘調査報告
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	13
編著者名	古川知明、小川幹太・岩﨑倫子・藤井秀明
編集機関	日本海航測株式会社
編集機関住所	〒921-804　石川県金沢市泉本町２丁目125番地
発行機関	富山市教育委員会　埋蔵文化財センター
発行機関所在地	〒930-0091　富山市愛宕町1丁目2-24　　TEL 076－442－4246
発行年月日	西暦　2006年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
とやまじょうあと 富山城跡	富山市総曲輪	162019	201015	33度 41分 24秒	129度 32分 39秒	20060116～ 20060301	2,811	総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
とやまじょうあと 富山城跡	城跡（城下町）	近世	溝、井戸、土坑、ピット、石組み水路、整地跡	肥前陶磁器(伊万里、唐津)、越中瀬戸、瀬戸美濃、木製品（下駄、漆椀、木札、板絵、刷毛、匙、しゃもじ、箸、櫛等）金属製品(キセル、刀子等)、石製品（硯、石臼等）、鍛冶関連用具（羽口、取瓶等）、鉄滓、銅銭（寛永通宝）	

要約	調査対象地からは、17世紀前半の慶長期富山城下町とみられる時期の溝が確認され、近世初期における城下町の存在を資料が少ないながら裏付けたといえる。遺構の主体は富山藩政期のもので、A区で検出した石組み水路は富山城下町絵図の多くに記載されている武家屋敷地と町屋敷地とを区画する背割下水に符合する。また、A区及びC-2区からは武家屋敷境の排水溝が検出されたが、これは天保年間（1830～1844）の絵図のみと一致することから、その存続期間を天保から安政元年までの間とみることができる。A-2区は自然科学分析及び出土遺物から18世紀後半に造成されていたことが確認された。本調査区のうち武家屋敷地からは主に肥前系陶磁器（伊万里・唐津）を中心に、越中瀬戸、瀬戸美濃が出土したことから、大半の遺構の帰属時期は19世紀前半～幕末である。皿は在地の越中瀬戸を多用し、碗は肥前陶磁器を多用する結果が算出された。特に下駄が多く出土し、多様な型式に分類され注目された。また武官を描いた板絵残片は天神板絵の一種とみられ、富山藩における天神信仰の広がりを示す貴重な資料である。このほか「戸田式部」と墨書された木札がある。19世紀に実在する重臣で、天保期絵図の「戸田」屋敷と調査地が附合している。このように発掘調査地と近世絵図とが整合する貴重な調査事例となり、また、当時の武家屋敷を中心とした城下町の生活を知る上で貴重な調査成果となった。

富山市埋蔵文化財調査報告 13

富山城跡発掘調査報告書

－ 総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城下町の発掘調査報告 －

2006（平成18）年12月25日発行

発 行　富山市教育委員会

編 集　富山教育委員会（埋蔵文化財センター）
〒930-0091
富山市愛宕町１丁目２－24
Tel　076-442-4246
Fax　076-442-5810
E-mail：maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷　高桑美術印刷株式会社